

長野高専平成28年度計画の策定項目

※ 策定項目については、全国高専一律 掲載頁

【1. 教育に関する事項】

(1) 入学者の確保	3～
1 適切な入試実施への取組計画	
2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画	
3 女子学生志願者の確保への取組計画	
4 その他	
(2) 教育課程の編成	4～
1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置	
2 英語力向上に関する取組計画	
3 学習到達度試験の活用計画	
4 専攻科の充実を図る計画	
5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画	
(3) 優れた教員の確保	6～
1 近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画	
2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画	
3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)	
4 教員FDの取組計画	
5 他機関との教員交流	
(4) 教育の質の向上・改善	8～
1 モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画	
2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画	
3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画	
4 ICT活用教材や教育方法の開発、利活用計画	
5 特色ある優れた教育実践や取組計画	
6 自己点検評価への取組計画	
7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画	
8 インターンシップの実施計画	
9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画	
10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画	
(5) 学生支援・生活支援	11～
1 メンタルヘルスについての取組計画	
2 就学支援・生活支援の取組計画	
3 キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)	
4 高い就職率を確保するための取組計画	
5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画	
(6) 教育環境の整備・活用	14～
1 施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)	
2 施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)	
3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画 <H28新規事項>	
4 PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況<H28新規事項>	
5 環境配慮への取組計画	
6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画	
7 その他	

【2. 研究に関する事項】	17～
1 外部資金獲得への取組計画	
2 産学連携についての取組計画	
3 知財管理についての取組計画	
4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)	
5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画	
6 地域共同テクノセンター等の活用計画	
7 その他	
【3. 国際交流等に関する事項】	19～
1 国際交流協定の締結	
2 学生の海外派遣計画	
3 留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)	
4 外国人留学生に対する研修の実施計画	
【4. 管理運営に関する事項】	21～
1 危機管理への対応	
2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応	
3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況	
4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画	
5 職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)	
6 人事交流計画	
7 資産の有効活用方策、IT資産の管理	
【5. 業務運営の効率化に関する事項】	23～
1 一般管理費の縮減取組計画	
2 随意契約の見直し状況	
【6. その他】	24～
1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	

長野工業高等専門学校年度の年度計画に係る実績報告（平成 28 年度）

【1. 教育に関する事項】

1－（1） 入学者の確保

1－（1）－1 適切な入試実施への取組計画

○平成 28 年度に入学した学生について、推薦と学力検査による合格者の中で、それぞれの下位成績者の成績を追跡し、分析する。この結果を入試にフィードバックする。

（実績報告）

○平成 28 年度に入学した学生について、推薦と学力検査による合格者の中で、学力入試生の下位成績者の成績を追跡を行った。これらの成績下位者の一部は、上位に食い込むが、多くは下位に留まっていた。この結果より、成績の良い学生を入学させることが学力向上につながると考えられ、入試倍率向上のため、高専の知名度の向上を図る施策を来年度に向けて行う。本年度はその一つとして、推薦入試基準を変えるとともに、推薦枠を拡大した。

1－（1）－2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画

○多くの入学志願者を募るため、本校の特色を近隣の中学校関係者（中学生、保護者、中学校教員）に発信する。

- ・長野県内の 4 か所の検査場別受験者数を分析し、受験者が少ない地区を後援会と協力して高専の PR を行う。
- ・ホームページを更新し、学校の PR を行う。
- ・中学校関係者を集めた、説明会を行う。
- ・ステークホルダーを意識したパンフレットを作成する。

（実績報告）

- 長野、諏訪、上田、下伊那、佐久において、中学校関係者を集め学校説明会を行った。また、松本、上田、佐久地区の進学塾に出向き、長野高専の受験希望者を含む中学生に進学説明を行った。
- 保護者による学校の後援会、飯下支部（飯田市および下伊那郡）および岳南支部（中野市および山ノ内町）の協力を得て、中学生を集めていただき、進学について説明を行った。
- 長野県中学校校長会において、入学試験について説明した。
- ホームページを随時更新している。また、平成 29 年度に向けて、より PR するため、パンフレットを更新した。

1－（1）－3 女子学生志願者の確保への取組計画

○理科系科目に興味のある女子学生を確保するための方策を検討する。

- ・女子学生の活躍、進路を含めた本校の特色を積極的に中学校関係者に広報する。
- ・一日体験入学、科学イベントに本校の女子学生を積極的に活用し、女子中学生とのコミュニケーションをとる機会を増やす。

（実績報告）

- 学校説明会、後援会、各種イベントにおいて高専機構が作成した「きらきら高専ガール」のパンフレットを配布し、女子学生の活躍及び本校卒業生の情報を積極的に中学校関係者に広報した。
- 一日体験入学、科学イベントに本校の女子学生を積極的に活用し、女子中学生とのコミュニケーションを図った。

1 - (1) - 4 その他

- 学力の高い学生を確保する方策の検討を行う。
 - ・入学者選抜結果の分析を行い、各地区の特徴を明らかにするとともに、入学志願者の少ない地域への効果的な広報体制を検討する。
 - ・推薦基準について、改定を含め検討する。

(実績報告)

- 推薦入試の基準を下記の様に変更した。

<これまでの基準>

中学校2学年および3学年の成績(9教科)が、5段階評価の評定の合計で74以上の者、又は、中学校2学年および3学年の成績において、5段階評価の評定で「数学・理科・英語」の成績がすべて5で、かつ9教科の評定の合計が70以上の者

<新しい基準>

中学校3学年の成績(9教科)が、5段階評価の評定の合計で36以上の者

また、推薦選抜の募集人員を各学科の募集人員の4割程度から5割程度に変更した。

- 上記の変更により、推薦基準がわかりやすくなるとともに、推薦で入りやすくなり志願者数が増加することを期待している。これにより、学力の高い学生を早期に確保するとともに、学力検査とあわせて総志願者数の増加が見込まれ、最終的に学力の高い学生の確保につながることを期待される。

- 入試志願者が少ない地域については、長野高専後援会に依頼し、広報を行った。また、後援会を通し、中学生に直接話す機会を作っていた。効果は十分現れなかったため、今後検討を継続して行きたい。

1 - (2) 教育課程の編成

1 - (2) - 1 中長期(5~10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置

- 学力向上のための教育課程の改善を検討する。
 - ・主体的学習を進めるための施策を検討し、実施する。
 - ・夏期研修期間等を利用してキャリア教育等を行い、学生が学習の目的が見つけられ、目標を定めて学習を行えるようにする。
 - ・アクティブラーニングを導入し、学生の主体的学習を進める。

(実績報告)

- 平成28年度からは、これらを整理してキャリアデザイン、キャリア演習、海外研修の科目を設けた。これらの科目は1~5年生までを通して単位を積み上げられるように設定した。学生が体験したそれぞれのイベントのレポートを提出する。各科目は従事した時間により1~8単位まで単位を取得できるようになった。

- 夏期研修期間等を利用してキャリア教育等を行い、学生が学習の目的が見つけられ、目標を定めて学習を行えるよう準備し、平成28年度から試行を始めた。

- アクティブラーニングの機器(キャスター付き机及び椅子、ホワイトボード、展示用パネル)を導入し、いくつかの授業や活動において、アクティブラーニングを実施した。また、アクティブラーニングに関する実践的な講習会を3月に実施した。

1 - (2) - 2 英語力向上に関する取組計画

- 修得した英語力を実践で活用し、自己評価できる教育方法を検討する。

<ul style="list-style-type: none"> ・海外インターンシップ、海外研修を実施する。
<p>(実績報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○過去最高の本科 33 人、専攻科 6 人の学生（後期実施）が海外インターンシップ及び海外研修を実施した。 ○長岡技術科学大学のアドバンストコースの協働科目の英語プレゼンテーション基礎を実施し、最終の授業ではテレビ会議システム GI-net により長岡技術大学とつないだ発表会を行った。

1－(2)－3 学習到達度試験の活用計画

<ul style="list-style-type: none"> ○学習到達度試験結果の活用を検討する。 ・成績上位者 50 名の氏名を掲示することで学生のモチベーションを高める。
<p>(実績報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学、物理、英語の同試験の結果を分析し、学習到達度の状況を把握した。 ○成績上位者の氏名を掲示し、学生のモチベーションを高めた。

1－(2)－4 専攻科の充実を図る計画

<ul style="list-style-type: none"> ○特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行う（5月）。 ○特例適用認定専攻科の変更届を行う（9月）。 ○学生のニーズに応じ、効率的かつ効果的なカリキュラムで学べるコース制の導入を検討する。 ○6年目となる「マイコン応用」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の 2 専攻共通専門科目への展開について検討する。 ○専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図る。従来不足していた商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼する。この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続する。 ○グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップ参加及び英語での研究発表等について推進する。
<p>(実績報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行った（5月）。 ○特例適用認定専攻科の変更届を行った（9月）。 ○特例適用認定専攻科の変更届の結果の報告および検討を行った（12月）。学修総まとめ科目を担当する専門学科の教員の採択が必要である。 ○学生のニーズに応じ、効率的かつ効果的なカリキュラムで学べるコース制の導入を検討した。 ○6年目となる「マイコン応用」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の 2 専攻共通専門科目への展開について検討した。 ○専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図った。従来不足していた商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼する。この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続した。 ○グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップ参加及び英語での研究発表等について推進した。

1－(2)－5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画

<ul style="list-style-type: none"> ○社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。 ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討する。
--

(実績報告)

○社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。

- ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を推進し、次のように実施した。
- ・「長野市放課後子ども総合プラン」に22名がアドバイザー登録し、主に若槻地区と三輪地区で活動に参加した。
- ・4月17日(日)に開催された「第18回長野マラソン」において、審判員13名、補助員23名の陸上部学生が協力した。また、吹奏楽部が高等学校の吹奏楽部とともにフィニッシュ会場でファンファーレを演奏し会場を盛り上げた。
- ・5月3日(火)に開催された「表参道芸術音楽祭(長野市主催)」にアカペラ同好会が参加した。
- ・6月16日(木)に8名の学生が清泉女学院大生4名と協力して、廃棄自転車を緑色に塗装し、「みどりの自転車」としてNPO法人に寄贈した。これらの自転車は、長野市内で観光客などに無料で貸し出されている。
- ・長野県障害者福祉センターサンアップルで開催された次のイベントに学生がスタッフとして参加した。

①6月3日(金)開催の「チーム対抗スポーツ大会」に3名の学生が参加した。

②7月8日(金)開催の「納涼祭」に9名の学生が参加した。

- ・8月7日(日)に長野市立古里公民館で開催された「しなの鉄道・北しなの線利用促進プロジェクト」に2名の学生が参加した。
- ・8月10日(水)～12日(金)に飯綱町で開催された「飯綱町・未来工作ゼミ」に1名の学生が参加した。
- ・10月10日(月)に北部スポーツ・レクレーションパークで開催された「第3回ウエルカム三才児まつり」にスタッフとして11名の学生が参加した。
- ・10月23日(日)に清泉女学院大学で開催された若槻地区「第6回ふるさと若槻ふれあいコンサート」に合唱同好会が参加した。
- ・学生会が主体となり、定期的(月1回程度)に献血活動を行っている。また、学園(工嶺)祭2日目(10月23日)の献血活動では学生および来場者計64名の受付者のうち46名が献血に協力した。これに先立ち、11月18日(金)に、長野県赤十字血液センターから講師を招き、2年生を対象に献血セミナーを実施し、献血の必要性を学んだ。
- ・長野市との連携の取り組みとして、北しなの線活性化協議会とのマップ作成に次のように学生が参加した。

① 地域住民とのワークショップ(7月, 8月, 2月)に19名の学生が参加した。

② マップの作成(7月～9月)に16名の学生が参加した。

③ 北しなの線1周年記念補助とマップの配布・アンケート調査(9月)に19名の学生が参加した。

- ・長野市との連携の取り組みとして、三才駅利用促進(サイまる)活動に学生が参加した。

① 「サイまる」お披露目式(8月7日)の補助に3名の学生が参加した。

② 三才駅でのおもてなし活動(9月, 10月, 12月, 3月)に各回3名の学生が参加した。

③ やさしさとふれあいの集い(11月12日:古里総合市民センター)に3名の学生が参加した。

1-(3) 優れた教員の確保

1-(3)-1

近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画

○教員の能力向上に資すると認められる研修会に係る情報の収集と提供を行い、参加経費の支援も

検討し、積極的な参加を促す。外部機関、民間企業・団体の主催する研修会・セミナーへ教員を派遣し、技術教育及び教育方法の能力向上を図る。

(実績報告)

○研修情報を常に把握し、内容に応じて、グループウェア等で広く情報提供している。また、適任と認められる者に対して個別に情報提供するなど、的確に参加を促す対応をしている。なお、業務上の有効性が認められる研修の参加費は原則として校費負担としている。

1－(3)－2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画

○専門科目（理系の一般科目を含む）にあつては、博士の学位を有する者、技術士等の職業上の高度な資格を有する者及び民間企業等の経験を通して高度な実務能力を有する者等、一般科目にあつては、修士以上の学位を有する者及び教育機関の経験を有する者等、優れた能力を有する者の採用の促進を図る。

○毎年実施される校長との面談において、将来の目的やキャリアプランを具体化し、明確化する。

○在外研究員及び内地研究員の各制度に基づく派遣を積極的に推進する。

(実績報告)

○平成 28 年 10 月 1 日付けで、一般科目において、博士（理学）の学位を持ち、大学非常勤講師の経験を有する者を採用した。また、平成 29 年 4 月 1 日付けで、一般科目（英語）で、修士（教育学）をもつ現職の公立高等学校教員を採用内定とした。

○6 月に校長と全教員との面談を実施、各教員の将来の目的やキャリアプランを具体化・明確化させた。

○平成 29 年度の在外研究員に、電子制御工学科の准教授を米国ノースカロライナ大学へ、平成 29 年 8 月 16 日～平成 30 年 3 月 31 日の期間派遣することが決定した。また、平成 29 年度の内地研究員の応募予定者がおり、派遣に向けて積極的に支援する方針である。

1－(3)－3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画（施設整備を含む）

○平成 27 年度に引き続き、平成 28 年度に実施する教員公募においても、女性限定公募または女性優先公募として実施し、女性教員の採用を一層推進する。

(実績報告)

○今年度もすべての教員公募において、女性優先にて募集を実施している。

○平成 28 年度は女性教員を寮務主事補に 1 名任命し、平成 29 年度は寮務主事補、学生主事補各 1 名を任命予定であり、学校運営の中心的な役割を担わせ、女性教員の管理職登用への育成を図っている。

1－(3)－4 教員FDの取組計画

○教員の能力向上を目的としたFD研修会を以下の内容で数回開催する。

- ・科学研究費補助金等の外部資金獲得のための研修会を実施する。
- ・低学年の学生指導（クラス運営、生活指導）の研修会を実施する。
- ・Blackboard の研修会を実施する。
- ・アクティブラーニングに関する研修会を実施する。

(実績報告)

○教員の能力向上を目的としたFD研修会を以下の内容で開催した。

- ・第 1 回 FD 研修会「高専卒業生キャリア調査結果について」を 9 月 21 日に開催した。（参加者 50 名）
- ・第 2 回 FD 研修会「情報セキュリティに関する講話」を 12 月 1 日に開催し、情報セキュリティの意識を高めた。（参加者 95 名）

- ・第3回FD研修会「アクティブラーニングについて」を3月23日に開催し（参加者44名）、さらに翌日の3月24日に「アクティブラーニング勉強会」を実施し、導入に向けての準備を行った。
- ・外部資金獲得のための研修会は研究支援委員会で実施した。
- ・低学年の学生指導およびBlackboardの研修会は来年度に開催する。

1－（3）－5 他機関との教員交流

○高専・両技科大間交流制度に基づく教員交流を一層推進する。

（実績報告）

○高専・両技科大間交流制度に基づき、平成29年度に長岡技術科学大学へ機械工学科准教授を派遣することが決定した。

1－（4） 教育の質の向上・改善

1－（4）－1 モデルコアカリキュラム（試案）を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画

○Webシラバスとモデルコアカリキュラムを連動して、授業内容の見直しを行う。

- ・Webシラバスを導入する。
- ・Webシラバスを利用して、モデルコアカリキュラムへの対応を確認する。
（専攻科）・シラバスの内容とのマッチングを行い、モデルコアカリキュラムに対応していない項目について検討を行う。

（実績報告）

- 平成28年度には大幅な学修単位の導入を進めるとともに、経費削減のため非常勤講師の人員を半減した。これにともないカリキュラム編成の変更を行った。（本科）
- ・平成28年度からWebシラバスの本格導入をした。平成29年度は、ルーブリック評価のWebシラバスへの反映御行い、平成30年度にモデルコアカリキュラム（本案）を反映する予定である。（本科）
- ・シラバスの内容とのマッチングを行い、モデルコアカリキュラムに対応していない項目について検討を行った。（専攻科）

1－（4）－2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画

○学生の積極的な授業への参加と学習意欲の向上を図る。

- ・対話型授業やアクティブラーニングの導入を進める。
- ・アクティブラーニング用に用意した機材を利用する。

（実績報告）

- 対話型授業やアクティブラーニングの導入を教育の重点項目とし、教員に周知するとともに学生に提示した。
- 授業評価アンケートで評価の高い教員の授業を授業公開時に推薦授業とし参観を進め、授業の実施の参考とするようにした。
- 対話型授業やアクティブラーニングの導入を進めるために、教員の研修を行った。
- アクティブラーニング用に用意した機材を利用した。

1－（4）－3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画

○ルーブリック評価等の導入を検討する。

- ・Webシラバスを利用して、モデルコアカリキュラムの科目レベルを決める。
- ・Webシラバスと連動して、ルーブリック評価を進める。

(専攻科) ○ルーブリック形式により個人面談を行い、その活用を検討する。

(実績報告)

- 平成 28 年度からルーブリック評価を行う科目 (キャリアデザイン, キャリア実習, 海外研修) を新たに開設し、ルーブリック評価を平成 27 年度実施開始から継続して行った。(本科)
- ルーブリック形式により個人面談を行い、その活用を検討した。(専攻科)

1 - (4) - 4 ICT 活用教材や教育方法の開発, 利活用計画

- 実践的能力を身に付けるための教材の開発や教育方法の利活用を検討する。
 - ・専門科目における実践的能力を身に付けるための教材を検討する。
 - ・Blackboard の利用を検討する。

(実績報告)

- Blackboard の教職員, 学生を登録し, 使用環境を整えた。また, Blackboard の講習会を開催するなどし, 今後の普及に努めた。

1 - (4) - 5 特色ある優れた教育実践や取組計画

- 新規に開設したキャリアデザイン, キャリア演習, 海外演習の選択科目により, 学習の目的が見つけられるようにする。
- 夏期研修期間に様々な形の学習を展開する。
 - ・アクティブラーニングを積極的に取り入れ, 特色ある教育を実践する。
 - ・授業公開において特色ある事業を教員同士が参観し, それぞれの授業に取り入れる。
- 「学外実習」において, 海外長期インターンシップが 3 年目を迎え, 「実践工学演習」を有機的にリンクさせ, タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開する。[一部 1-(2)-4 の再掲]

(実績報告)

- 平成 27 年に開設した上記科目を全学年に対応できるように変更し, キャリア教育等を実施するため新たな選択科目 (キャリアデザイン, キャリア実習, 海外研修) を開設した。
- 学生の主体的学習を推進するため, 夏季休業前に前期を終了し, 8 月上旬から 9 月下旬までを夏季自主研修期間として, キャリア教育を含めた学習を推進した。
- 1, 2 学年の各クラスに一人ずつ専門学科の教員を学生の自主研修の担当として配置し, 担任と協力して夏季自主研修中の学生の活動をサポートするようにした。
- 「学外実習」において, 海外長期インターンシップが 3 年目を迎え, 「実践工学演習」を有機的にリンクさせ, タイ, 台湾及びシンガポールにおけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。[一部 1-(2)-4 の再掲]

1 - (4) - 6 自己点検評価への取組計画

- 今年度に本校における「自己点検・評価報告書 第 11 報」の刊行を行う。

(実績報告)

- 「自己点検・評価報告書(第 11 報)」を 2 月に刊行した。

1 - (4) - 7 JABEE 認定, 機関別認証評価への取組計画

- JABEE 認定継続審査を受審する。
- チームワーク力及びリーダーシップを加味した JABEE プログラム用「学習・教育目標」を学生等へ周知する。
- 「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき, その活用を検討する。

(実績報告)

- JABEE 認定継続審査(11月6日～8日実地審査)を受審し、平成28年から平成33年の6年間で認定された。
- チームワーク力及びリーダーシップを育成する授業において、学習・教育目標とともに学生に周知した。
- 「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書を担任と学生との面談時に使用して、今後の学習の仕方等の検討に活用した。
- 機関別認証評価(平成30年度受審予定)への対応の検討を始めた。

1-(4)-8 インターンシップの実施計画

- 国内外のインターンシップ先を開拓し、学生の派遣を実施する。
 - ・本科生の海外インターンシップへの参加を推進する。
- 「学外実習」において、海外長期インターンシップが3年目を迎え、タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開する。[一部 1-(2)-4の再掲]

(実績報告)

- 平成28年度からは本科1～5年の全学生を対象とした科目キャリア演習を開設し、インターシップの学生参加の幅を広げた。(本科)
- 夏季自主研修期間を長期に設定し、全ての学年の学生が参加しやすいようにした。(本科)
- 企業等に派遣される前に、4年生に企業人としての心構えとマナーの講習をそれぞれ実施した。(本科)
- 4年時にほぼ全員の学生がインターシップを実施しており、卒業までに、100%の学生がインターシップに参加している。(本科)
- 「学外実習」において、海外長期インターンシップが3年目を迎え、タイ、台湾及びシンガポールにおけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。[一部 1-(2)-4の再掲](専攻科)

1-(4)-9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画

- 国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実する。
 - ・本科生・専攻科生の実務訓練・学外実習を継続する。
- (専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討する。
 - ・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」において、「地域技術者から学ぶものづくり技術(地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続する。
- ・専攻科生の海外長期インターンシップを推進する。

(実績報告)

- 海外でのインターシップ先を開拓し、長野高専技術振興会会員企業と連携して平成28年度は39名の学生が海外で実習を行った。
 - (専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討した。
- ・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」において、「地域技術者から学ぶものづくり技術(地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続する。
- ・専攻科生の海外長期インターンシップを推進した。

1-(4)-10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画

- 高専機構が推進している改革プロジェクトに連携し、eラーニング及びICT活用教育への取組みを検討する。

- ・高専機構が推進している改革プロジェクトに参加し、連携校として協力する。e - ラーニング及びICT活用教育への取組みを検討する。
- ・長岡技術科学大学のアドバンストコースに参加する。

(実績報告)

- 高専機構が推進している改革プロジェクトに参加し、連携校としてCBTを実施した。
- 授業及び授業アンケートでBlackboardの利用を開始した。
- 学生の選択科目の申込を、Blackboardにより行うようにした。
- 長岡技術科学大学のアドバンストコースに参加し、協働科目として「英語プレゼンテーション基礎」を実施した。

1 - (5) 学生支援・生活支援

1 - (5) - 1 メンタルヘルスについての取組計画

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
 - ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施する。
 - ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催する。
 - ・文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施する。
 - ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図る。
 - ・教職員を対象とした学生相談室研修会および学生相談室ミニレクチャを開催する。
 - ・メンタルヘルスに関する講演会の実施を検討する。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
 - ・カウンセラーの勤務日数は現在週2日であるが、一つの事案に時間を要することが多く、相談希望も多いことから、カウンセラーが常駐できる体制の実現に向け検討を進める。
 - ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守る。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
 - ・平成27年度と同様に高専機構から示された『こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）』を、全学生を対象として実施する。
 - ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行う。状況により、カウンセラーと学生との面談も設定する。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
 - ・SNSや命を守るなどの講演会を開催する。
 - ・定期的に「何でも相談室」を実施する。

(実績報告)

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努めている。
 - ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施した。この講習会において心理アンケート「心のセルフチェック」も行い、学生自らが今の心の状態について振り返った。
 - ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催した。
 - ・文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施した。
 - ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図っている。

- ・教職員を対象としたハラスメント防止に関する研修会を実施した。
 - ・障がい学生の特別支援に関する研修として、教職員向けの学生相談室ミニレクチャを開催した。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
- ・カウンセラーの勤務日数は現在週2日であるが、一つの事案に時間を要することが多く、相談希望も多いことから、カウンセラーが常駐できる体制の実現に向け検討を進めてきた結果、29年度から週5日の勤務体制が実現することとなった。
 - ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守っている。
 - ・障がいを抱えた学生に対し担任及び必要な学内組織と連携し特別支援を推進した。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たっている。
- ・平成27年度と同様に高専機構から示された『こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）』を、全学生を対象として実施した。
 - ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行っている。状況により、カウンセラーと学生との面談も設定している。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
- ・後援会からの新しい支援により、主に寮生対象として、1月にSNSの問題を含めたネットワーク関連の講演会を開催した。内容も良く今後も、各種の講演会や相談会の開催を考えたい。
 - ・「なんでも相談室」と銘打って実施しなかったが、寮生会との懇談会や寮担任による面談において、要望や相談等を聞いている。来年度は「なんでも相談室」の開催を行う。

1－(5)－2 就学支援・生活支援の取組計画

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
- ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行う。
 - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行う。

(実績報告)

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進している。
- ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行っている。
 - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行っている。

1－(5)－3 キャリア形成支援についての取組計画（女子学生に対する取組を含む）

- 平成24年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進める。
- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討する。
 - ・3年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行う。また、進路が確定した5年生による進路講話等を実施する。
 - ・4年生向けには、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会、面接セミナー、卒業生による講演会等を実施する。
 - ・4年生に対しては、年金説明会及び新社会人ワーキングセミナー等の実施を検討する。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。
- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知する。
 - ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学

<p>園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達する。</p> <p>○寄宿舎において、寮生対象の進路講演会を開催する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討している。 ・3 年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行った。進路が確定した 5 年生による進路講話は諸事情により、実施できなかった。 ・4 年生向けには、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会を実施した。卒業生による講演会は各学科ごとに実施した。 ・4 年生に対する、年金説明会及び新社会人ワーキングセミナー等の実施を検討した。諸事情により実施には至らなかったが、来年度も引き続き検討する。 ・工嶺祭（学園祭）において、地元企業による企業展を開催し、進路に対する学生の意識向上を図った。 <p>○女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知した。 ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達するよう努めた。 <p>○寄宿舎において、寮生対象の進路講演会を開催する予定であったが、開催できなかった。</p>

1 - (5) - 4 高い就職率を確保するための取組計画

<p>○本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。</p> <p>○本校における就職率は例年ほぼ 100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成 27 年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成 28 年 5 月に教職員に周知する。今年度も同様の趣旨で報告書を作成し、教職員に周知する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知した。</p> <p>○本校における就職率は例年ほぼ 100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理し「平成 28 年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成 29 年 5 月までには教職員に周知する予定である。</p>

1 - (5) - 5 寄宿舎等の学生支援施設の整備計画

<p>○寄宿舎の防犯カメラのネットワーク化計画（北側）を検討する。</p> <p>○寄宿舎の改修に伴い、談話室の新設、鍵の改修を検討する。</p> <p>○災害時における設備（自動火災報知器設備、災害時の自動解錠設備）の充実を図る。</p> <p>○寄宿舎内における老朽化した設備（浴室ボイラ改修、蒸気ボイラ撤去、食堂空調改修等）について再点検・整備を検討する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○防犯カメラ用ネットワーク化（北側）を要望し、1 月に整備した。</p> <p>○3 号館に新しく談話室を設置した。</p> <p>○7 号館玄関の鍵を改修し、7 号館を女子寮として利用できるようにした。</p> <p>○災害時における設備（自動火災報知器設備、災害時の自動解錠設備）の改善を行った。</p>

- 男子寮浴室設備の修繕は随時実施したが、老朽化した設備（浴室ボイラ改修，蒸気ボイラ撤去，食堂空調改修等）については，今後も予算申請を行いたい。
- 老朽化してきている設備（洗濯機，乾燥機，掃除機）を更新した。

1－（6） 教育環境の整備・活用

1－（6）－1 施設の有効活用についての取組計画（利用状況調査，スペースの再配置等）

- 第3期中期計画を基本に，施設マネジメント重視の観点から，教育と研究のポテンシャルを最大限に引き出し個性と魅力あふれる学校とするため，施設マネジメント重視の観点から，現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進める。

（実績報告）

- 第3期中期計画を基本に，施設マネジメント重視の観点から，教育と研究のポテンシャルを最大限に引き出し個性と魅力あふれる学校とするため，施設マネジメント重視の観点から，現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進めた。

1－（6）－2 施設整備計画の取組計画（キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等）

- 毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ，グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し，関連予算の獲得を目指す。
- 今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため，その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査を実施する。
- 武道館の天井照明設備の耐震化整備を進める。
- 老朽化した基幹配管の更新計画を進める。

（実績報告）

- 毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ，グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し，関連予算の獲得を目指した。
- 今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため，その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査を実施した。
- 武道館の天井照明設備の耐震化整備を実施した。
- 老朽化した基幹配管の更新計画を進め，予算要求を行った結果，平成29年度予算で整備する目処がたった。

1－（6）－3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画

- セミナー室及び講義室の2室に，アクティブラーニング用の机，椅子等を平成27年度に配置したので，この2室をアクティブラーニング用として使用を促進する。
- ポスター発表等ボード等の活用により，ポスター発表形式によるアクティブラーニングを推進する。

（実績報告）

- 前年度に準備したアクティブラーニング用の机等の活用を促した。

1－（6）－4 PCB 廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況

- PCB 廃棄物の処分予算が付くまでの間，PCB 廃棄物保管庫の定期的な巡視を行い適正な保管に努める。

(実績報告)

○PCB 廃棄物の処分予算が付くまでの間、PCB 廃棄物保管庫の定期的な巡視を行い適正な保管を行った。

1－(6)－5 環境配慮への取組計画

- 電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進する。
- 学生寮の共用施設の照明のLED化を検討する。
- 校内の緑化推進の検討を行う。
- 身近な廃棄物を減少させる取り組みを経験させることにより、環境マインドの醸成を目指す。

(実績報告)

- 電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づき実施した。
- 学生寮の共用施設の照明のLED化を検討し、使用頻度が高く、また老朽化していた浴室照明をLEDに更新した。
- 緑化推進のため植樹を計画したが、敷地及び落ち葉の問題があり断念した。
- 廃棄物を減少させるため、校内に刈り草と落ち葉の集積所を設置し、回収を行った。なお、設置した集積所は、校内全域の刈り草と落ち葉を回収するには手狭であるため、次年度以降、新たな対応を検討する。さらに、学生寮食堂の残渣量の調査を依頼し、調査結果を寮務主事に連絡し、対応を依頼した。
- 教室美化のため、教室の清掃状況・整理整頓状況を評価する「教室美シュラン」コンテストを実施し快適な教育環境の確保を行っている。

1－(6)－6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画

- 産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、さらに周知する。
- 産休、育休等の教員が在籍する学科への支援内容を検討する。
- 平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を活用し引き続き女性教員の採用促進を図る。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（長野市との連携事業）を開催する。

(実績報告)

- 産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、グループウェアを随時最新の状況に更新し周知した。
- 産休、育休等の教員が在籍する学科への支援内容を検討している。
- 平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を活用し引き続き女性教員の採用促進を図っている。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（12月6日、長野市との連携事業）を開催した。
- 高専機構主催の男女共同セミナーに女性教員を1名派遣した。

1－(6)－7 その他

- 寄宿舎での国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換を実施し、その内容について環境整備の改善等を検討する。
- 選挙権年齢の18歳への引下げに対応し、政治や選挙に関する資料や参考図書を学生に紹介し、啓蒙活動をおこなう。
- ブックハンティングツアーを実施し、学生の目線で選書した図書を蔵書に加える。

(実績報告)

- 学生寮の風呂環境に関するアンケート調査を、寮生およびその保護者を対象に平成 27 年度に実施した。その結果を受けて、平成 28 年度より男子寮浴槽のお湯を週 3 回入れ替えることとした。
- 留学生や長期短期国際交流ステイ学生および合宿用として、シャワー室を新設し、平成 28 年度前期より運用を開始した。
- 女子の短期国際交流ステイ用の部屋を 3 室確保し、平成 28 年度前期に 2 名の利用があった。
- 留学生との意見交換会が開催できなかった。留学生との交流企画も含めて考えていきたい。
- 選挙権年齢の 18 歳への引下げに対応し、政治や選挙に関する参考図書を新たに計 29 冊購入した。6 月下旬から 8 月上旬にかけて、既に所蔵している図書も含めて図書館入口で展示を行い、学生に対する啓発活動を行った。今後も選挙権啓発について意識した図書館活動を行いたい。
- ブックハンティングツアーを 7 月に実施し、学生 12 名が参加した。学生視点による計 71 冊の図書が選定され、図書館の蔵書に加えられた。二度目は 1 月に実施した。参加者は学生 6 名で計 50 冊の図書が選定され、学生の紹介文とともに展示された。学生人数がもっと多くなるように、広報活動に力を入れたい。

【2. 研究に関する事項】

2-1 外部資金獲得への取組計画

- 科学研究費補助金の申請数及び採択件数を増加するための施策を引き続き検討し、実施する。
- 教員の研究活動を把握し、これをもとに各種助成事業への応募を促す。
- 大学等と連携して、外部資金の獲得を目指す。

(実績報告)

- 研究計画書添削支援を実施し、コーディネータ2名、学内教員1名、学外教員1名による研究計画調書の添削指導を実施した。(7月1日～10月24日)
- 教職員に対して科研費申請を勧め、事務担当等からフォローした結果、教員からの申請率は92%であった。
- 『研究計画調書の点検・改善策のスキル養成(DVD)』『採択される科研費申請(書籍)』『科研費採択のコツ』を購入し校内で随時貸出している。
- 研究業績の広報に向けて、研究業績をResearchmapへ登録するよう呼びかけた。
- グループウェアへ各種助成事項の公募内容を随時掲示している。
- 大学との連携による共同研究申請は8件を行い、採択は8件であった。

2-2 産学連携についての取組計画

- 本校の機器シーズ集をより使いやすく分類・作成して公表することにより、学内外からの機器の利用を促進し、共同研究につなげる。
- コーディネータを活用し、産学連携を促進する。
- 地域企業との交流を活性化させ、産学連携を促進する。

(実績報告)

- 研究シーズ、機器シーズを充実させ、冊子やホームページに掲載するとともに、各種イベントや産業展において企業への周知をおこなった。
- コーディネータを活用して、地域企業への訪問によるニーズの掘り起こし教員シーズとの結びつけ、自治体との連携によるプロジェクトの立ち上げ等をおこなった。
- 中南信を担当するコーディネータを設置し、中南信企業へのPRの強化を図った。
- 長野県、県公設試、金融機関や商工会議所などとの連携強化に努めた。
- コーディネータを活用し、定期技術相談会を設定した。
- コーディネータを活用して、連携を強化することにより、共同研究新規19件、受託研究新規7件、寄付金24件を獲得した。
- 地域企業と協同した地域活性化協議会を3回実施した。

2-3 知財管理についての取組計画

- 弁理士に依頼して、教員の特許執筆の指導を受け、特許発掘を行う。
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。

- 弁理士による教員の特許明細書執筆の個別指導を実施(7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。
- 出願した特許について審査請求判断を適切に行うため、信州TL0による特許ヒアリングを実施した。

2-4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)

- 地方公共団体、経済団体等と連携して社会人の学び直しの講座を実施し、社会ニーズに合わせた

<p>講座の充実を行う。</p> <p>○産学連携及び共同研究成果の発表会を実施して公開する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○地方公共団体などとして、テクノ財団や地域センター、県職業能力協会、長野市等と連携して社会ニーズに対応した講座を実施している。学外や学内で 50 以上の講座、180 以上の回数を行った。</p> <p>○「イノベーション・ジャパン 2016 - 大学見本市&ビジネスマッチング」(8 月 25 日及び 26 日)に、電子制御工学科・中山准教授が出展及び発表を行った。(高周波線路の表皮効果抑制～正/負透磁率材料の設計手法の紹介～)</p>

2-5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画

<p>○出前授業についての内容の精査等を行い、継続して実施する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○出前授業についての内容の精査等を行い、継続して実施した。</p>

2-6 地域共同テクノセンター等の活用計画

<p>○地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を促進する。</p> <p>○各種産業展に参加し、PRを図る。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を図っている。</p> <p>・共同研究新規 20 件、受託研究新規 7 件、寄付金 34 件、技術相談 14 件</p> <p>○しんきんビジネスフェア (5 月 11 日)、さく市 (10 月 1 日, 2 日)、諏訪圏工業メッセ (10 月 13 日～15 日)、上田産業展(10 月 21 日, 22 日)、産業フェア in 善光寺平(10 月 28 日, 29 日)、MatchingHUB Kanazawa2016 (11 月 1 日, 2 日)、人材ふれあいフェア (11 月 12 日)</p>

2-7 その他

<p>○県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展する。</p> <p>○長野高専キッズサイエンス、キッズサイエンス inTOiGO を企画し、実施する。</p> <p>○長野市立図書館との連携貸出サービスについて、実現に向け引き続き協議を進める。</p> <p>○図書館講演会を開催し、長野高専及び図書館利用について、一般市民へ PR を図る。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展した。会場は、諏訪、佐久、上田、長野の各地である。</p> <p>○長野高専キッズサイエンス、キッズサイエンス inTOiGO を企画し、実施した。長野高専キッズサイエンスは、13 テーマを出展し、来場者総数が 2,031 名であった。キッズサイエンス inTOiGO は、8 テーマを出展し、来場者総数が 1,250 名であった。</p> <p>○長野市立図書館との連携貸出サービスについて、引き続き協議を進めている。いくつかの問題があって実現は難しそうである。</p> <p>○図書館講演会「「銀河鉄道の夜」で巡る最新の宇宙像」を 11 月 19 日に開催し、計 45 名(うち学外者 33 名)の参加があった。あわせて入学案内等を配布し、長野高専及び図書館利用について、一般市民への PR を図った。更により多様なテーマを設定して、講演会を実施することが期待される。</p>

【3. 国際交流等に関する事項】

3-1 国際交流協定の締結

- 国際交流協定締結校との交流を実施する。
- 海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

(実績報告)

- 国際交流協定締結校との交流を以下のように実施した。
 - ・4月11日(月)～5月27日(金): 泰日工業大学学生4名を受け入れた。
 - ・7月27日(水)～8月3日(木): 香港 IVE 学生10名を受け入れた。
 - ・8月24日(水)～8月31日(水): 香港 IVE へ本校学生10名を派遣した。
 - ・9月3日(土)～10月13日(金): シンガポールポリテクニク学生3名を受け入れた。
 - ・9月26日(月)～10月7日(金): タイテクニカルカレッジ学生26名を受け入れた。
- 海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。
 - ・ベトナムのダナン工科大学と平成29年3月28日付けで交流協定を締結した。
 - ・台湾の国立聯合大学との交流協定締結に向けて進めている。

3-2 学生の海外派遣計画

- 学生の海外渡航を推進する。
 - ・学生の国際会議への参加を推進する。
 - ・学生の海外研修を推進する。
- 海外インターンシップへの参加を推進する。

(実績報告)

- 学生の海外渡航を推進した。
 - ・8月22日(月)～9月2日(金): 中国の北京日本語放送局へ海外研修として4名の学生を派遣した。
 - ・8月24日(水)～8月31日(水): 香港 IVE へインターンシップおよび海外研修として10名の学生を派遣した。
 - ・9月5日(月)～9月18日(日): 台湾台北科技大学へインターンシップとして10名の学生を派遣した。
 - ・10月3日(月)～10月13日(木): 高専機構主催の ISTS2016 に本校専攻科学生を1名派遣した。
 - ・12月6日(火)～12月10日(土): タイの Science Based Technology Vocational College (Chonburi) に高専機構リエゾンオフィス開所式記念交流会でテクニカルカレッジの学生との交流に10名の学生を派遣した。
 - ・2月26日(日)～3月3日(金): タイのバンコク, アユタヤに海外研修として3名の学生を派遣した。
- 海外インターンシップへの参加を推進した。
 - ・専攻科学生を台湾へ3名, タイへ2名, シンガポールへ1名の学生を3か月間派遣した。
 - ・本科学学生を香港へ9名, 台湾へ5名, 中国へ4名, インドネシアへ4名, カンボジアへ2名, ベトナムへ7名派遣した。

3-3 留学生の受入体制の強化計画 (留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)

- 留学生の受入れ体制の強化のため, インフラ整備の検討を行う。

(実績報告)

- 留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討を行う。
- ・留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討を行い、寮内にシャワー室を設置した。
- ・専攻科棟の一室に国際交流センター室を設置した。

3-4 外国人留学生に対する研修の実施計画

○外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。

- ・留学生との意見交換会を実施する。
- ・留学生の研修旅行を実施する。
- ・留学生とチューターとの交流を充実する。

(実績報告)

○外国人留学生に対する研修の実施計画を策定した。

- ・平成 28 年 6 月 15 日(水) と平成 29 年 2 月 21 日(火) において、留学生との意見交換会を実施した。
- ・平成 29 年 1 月 14 日(土) において、留学生の研修旅行を山梨県で実施した。
- ・留学生とチューターとの交流を充実した。

【4. 管理運営に関する事項】

4-1 危機管理への対応

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
 - ・安全管理意識を年度早期に徹底するため、総合防災訓練を年度早期（6月）に実施する。
 - ・定期的に校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応する。
 - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充する。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に備えるとともに、発生又は発生することが予測される事態に伴う危機に対して、迅速かつ的確に対処する。

（実績報告）

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
 - ・総合防災訓練を6月に実施した。
 - ・毎月1回校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応した。
 - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充した。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に迅速に対処している。

4-2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、高専機構主催の研修会等はもとより監査法人所属の公認会計士等による専門的な研修会及び信州大学等他機関が主催する研修会等へ積極的に参加する。また、参加者による報告会を開催し、他職員へ研修事項のフィードバックを図る。

（実績報告）

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、下記の高専機構主催の研修会及び他機関が主催する研修会等へ参加した。
 - ・国立高等専門学校機構会計入門研修
 - ・東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修
 - ・関東・甲信越地区国立大学法人等施設担当職員研修

4-3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を継続的に開催し出席率を100%とする。また、新任教職員には、採用時説明会で周知を図る。その際、アンケートによりその結果を分析し説明内容の改善を図る。
- 決算検査報告事項などの重要事項を学校内専用サイトに掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とする。

（実績報告）

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員（新任教職員含む）に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を開催（4月1日、4月27日、8月1日、10月3日）し、出席率を100%とした。その際、記名式アンケートによりその理解度を分析し説明内容の改善を図るとともに、質問事項はQ&Aとして本校電子掲示板に掲載し周知した。
- 決算検査報告事項などの重要事項を本校電子掲示板に掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とした。

4-4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画

- 定期健康診断及び人間ドックの受診を徹底する。
- コンプライアンス意識の向上を図る。

- ・全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。
- ・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(実績報告)

- 定期健康診断及び人間ドックの受診の徹底を図り、全対象者が受診した。
- 12月にコンプライアンスに関するセルフチェックを全教職員に実施した。また、セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言を行い全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った。

4-5 職員に対する研修の実施・参加計画（国，地方自治体，国立大学，企業等が実施する研修等の活用を含む。）

- 高専機構主催の能力向上に資する研修会に積極的に参加する。
- 国，地方自治体，国立大学法人，民間等外部団体主催の研修会の情報収集を行い，業務に関する知識及び技能の向上に資すると認められる研修会への参加を促進する。

(実績報告)

- 高専機構主催の能力向上に資する研修会へ適任者・対象者を業務に優先して以下の研修へ参加した。
 - ・会計入門研修，決算・税務研修，東日本地域技術職員特別研修会，関東甲信越地区技術職員研修会，IT人材育成研修
- 高専機構以外の外部機関主催の以下の研修へ参加した。
 - ・総務省主催：情報システム統一研修(第一四半期，第二四半期)，JASSO主催：全国障害学生支援セミナー

4-6 人事交流計画

- 本校独自採用の事務職員を含めた信州大学との人事交流を継続する。
- 平成26年度に制度化された高専間職員交流制度の活用を検討する。
- 本校独自採用の事務職員の定期的な内部異動計画を，職員の要望や適性等に留意しつつ，外部機関への出向を含め，幅広いキャリアが育まれるよう引き続き検討・実施する。

(実績報告)

- 信州大学との協議により，4月1日付けで4名，8月1日付けで1名の事務職員の人事交流を継続実施した。
- 高専間職員交流制度について，希望者が潜在的にあり，受入側との組織上のマッチングの問題等の課題を踏まえ，引き続き実現に向けて検討している。
- 来年度の異動について，職員の要望や適性等に配慮しつつ，幅広いキャリアが育まれるよう異動計画を検討した。

4-7 資産の有効活用方策，IT資産の管理

- 校内における備品のリユースを一層推進し，資産の有効利用を図る。
- ソフトウェアライセンス管理を適正に行い，機構本部が有するIT資産管理システムへの登録を継続的に行う。

(実績報告)

- 使用部署において不必要となった物品のリユースを行った。引き続きリユースを推進する。
- IT資産管理システムの変更に伴う移行準備を進めている。

【5. 業務運営の効率化に関する事項】

5-1 一般管理費の縮減取組計画

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図る。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定める。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化に努める。

（実績報告）

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図った。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定めた。
- 予算配分においては、校長のリーダーシップを十分に発揮できるよう校長裁量経費を確保した。
- 全校的な視野から教育研究活動のなお一層の活性化を促し、充実・発展を図ることを目的に特別経費を確保した。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化を図った。

5-2 随意契約の見直し状況

- 業務運営の効率性及び国民の信頼性の観点から、引き続き、契約に関しては一般競争入札とすることを原則とし、随意契約についての見直しを図り、仕様策定に際しては競争性の確保に留意した仕様とするよう努める。

（実績報告）

- 一般競争入札を実施した。また、仕様策定においては、競争性の確保に努めた。

【6. その他】

6-1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

○以下の土地等の譲渡に向けた手続きを進める。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m²(建物 347.79 m²(木造 2 階建))

(実績報告)

○一般競争入札を 2 回実施するも応札者がおらず、譲渡の見通しは立っていない。当該施設の存する地域は豪雪地帯で、過疎化などの状況から資産の売り払いは困難な情勢である。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m²(建物 347.79 m²(木造 2 階建))